



8月28日(木) スマホの「使いすぎ」を考える機会に

時間があるといふスマホを触ってしまうところか、四六時中、見ているのは健全とは言えない。法令でスマホの利用を制限する是非はともかく、日常がスマホ漬けでいいのか、社会全体で考えたい。◆愛知県豊明市は、仕事や勉強など以外でスマホやタブレット端末を使用する目安を「1日2時間以内」(小学生以下は午後9時まで、中学生は午後10時まで)とする条例案を提出した。スマホの過剰な使用を防ぐことが目的だという。◆「行政が家庭の問題に介入するのか」など批判的な声もあるという。しかし、スマホの「使いすぎ」に一石を投じた意義は小さくない。今回の学力調査では、大幅な低下が確認された。スマホの利用時間の増加が一因とみられる。SNS上のいじめや、ゲーム依存も社会問題化している。外国では、国が子どものネット利用を制限する動きが広がる。法令や条例で個人の自由を制限すべきでないという意見もあるが、スマホ依存を現状のまま放置していいのか。対策を真剣に考える時期に来ている。◆大人も例外ではない。歩きスマホや車の運転中の「ながらスマホ」など、危険な行為も目立つ。子どもに注意する大人が頻繁にスマホをいじっている。

また、本を読まない人が過去最多に達した。その理由は、情報を得るのがスマホに取って代わったからだ。まずは大人がスマホの使い方を省みて、子どもとの使用時のルールを話し合っただろう。読売新聞 8月26日の社説から(牧野要約)

5歳児は、5年後にはスマホを持つようになるでしょう。遠い先の話ではありません。子どもは、親のスマホの使い方を真似します。



訓高インターンシップ報告会 8月27日(木)

こども園に来た高校生の発表を聞いてきました。町長さん。教育長さんも来ていました。

保育士は、「大変だけど、やりがいのある職業」(PowerPointで発表)

こども園の他に、訓子府町役場・図書館、シティマートくんねっぷ店、菓子處大丸、ホテルベルクラシック北見、プリティワンフンイオン北見店、イオンシネマ北見、株式会社富田通商、パンドラハウスイオン北見店、東相内中学校、南中学校、11か所(30人)の報告がありました。

「働くとは?」という課題に「お金ではない、やりがいの仕事をしたい」と感想を述べていました。



9月1日(月) 子どもの学力低下 デジタル機器の影響は大きい

8月29日 読売新聞 社説から 牧野要約

学力調査で、子どもの学力の大幅な低下が判明した。スマホやゲームに費やす時間の増加が一因とみられている。日本の子どもの学力は高水準で安定していただけに、深刻な結果と言わざるを得ない。コロナ禍で十分な授業ができなかった影響を指摘する専門家は多い。しかし、それだけではあるまい。スマホやゲームに費やす時間が増えた影響も見逃せない。

調査では、平日にスマホを使用する平均時間は小6が1時間5分、中3が1時間56分だった。いずれも前回調査よりも20分程度伸びる一方、勉強時間は短くなった。コロナ禍の外出制限で、デジタル機器を長時間使うようになり、それが習慣になってしまった子どもも多いのではないか。

スマホの使用時間が1時間以上になると、成績が低下する傾向が見られた。親の使用時間が長いほど、子どもも長くなるという結果も出ている。スマホとどう向き合うか、各家庭での取り組みが必要である。家庭の蔵書量が少ないほど、成績が大きく低下している点も注目したい。家庭の蔵書が100冊以上と25冊以下のグループでは2倍近い学力の差があった。

平野商店の閉店セールに行ってきました。町から本屋さんがなくなりました。子どもの頃、小学館「小学〇年生」の発売日に、お小遣いを握りしめて、近くの本屋さんに走って買いに行ったことを思い出しました。いろいろなものをネットで購入する時代になりました。

9月2日(火) 町内会と歩道の花壇

9月に入っても暑い日があるようですが、秋の気配を感じます。近所の庭にピンク色のムクゲが咲いています。(花言葉は「信念」)玄関のプランターは、どれだけきれいに長く持たせるかは、これからの手入れ次第です。



通勤時、車を運転していると、歩道のきれいな花壇が続くかと思ったら、急に草ぼうぼうの歩道に変わります。町内会によって、取り組みが違います。花の苗は、行政が用意するようですが、若い住人が多い町内会は、忙しくて花壇を作るどころか、家周辺の清掃もできないというのです。確かに、朝早く、花壇の手入れをしたり、掃除をしているのはお年寄りです。今は人手不足で女性も年寄りも働かなければならない時代になりました。反面、マチに潤いが無くなってしまいます。街路樹や花壇のあるきれいな街並みは残してほしいものです。街並みは民度の表れです。ただし、その管理を行政任せにすると財政破たんを招くことになるので、住民が少し頑張らなければならないと思います。

朝、花殻取りをしていると「園長先生、おはようございます。」と元気な声が聞こえました。つい最近までずっと、「園長先生に、ごあいさつは？」と言われていた子です。

教育・保育も手間暇をかける。良いモノにするには労力と時間を惜しまずに費やすことが大事です。

コドモン連絡 「雨が降ったから、お休みします。」

農家さんにとっては、今は一番忙しい時です。

「雨で農作業ができないのは痛手ですね。」と言うと、「いや、雨でないと休めないから、雨がずっと困るけど、一日だけなら、ちょうど骨休めになっていいですよ。」という保護者さんがいました。子どもにとっても、お家の人と一緒にいられて、雨を喜んでいると思います。



シェイクアウト訓練 「防災の日」～地震時の3つの安全行動～

1:まず低く 2:頭を守る 3:動かない

園では、非常食の試食を行いました

9月3日(水) ストレスを感じるのは、大人だけではありません。

子どもだって感じています。人は、ストレスにさらされ続けたりすると、身体に不調を引き起こし、放っておくと「うつ病」になってしまいます。ストレスは誰にだってあります。そこで重要なのは、ストレスをため込んでしまわないこと、ストレスを上手にコントロールすることです。

・〇〇〇・ぐっすりリズムでストレス解消 睡眠が大事・〇〇〇・

◆朝起きたら太陽に挨拶する。 体には体内時計が備わっていて、起床後15～16時間で次第に眠気が訪れるようになっていきます。朝、起きたらまずカーテンを開けて日光を浴びましょう。朝の光がホルモンを調整し、心地よい夜の眠りを導きます。

◆座りっぱなしはダメ! 脳と体が疲れると自然に眠気を催しますが、一日中デスクワークをしていると脳は疲れていても、身体は疲れていないので寝つきが悪くなります。子どもはテレビゲームばかりしていないで、身体を使って遊ぶことで眠気を誘います。

◆お風呂で緊張緩和 就寝前1~2時間前にぬるめのお湯に10分ほど浸かるとリラックスしてぐっすり眠れます。

◆ベッドにストレスを連れて行かない! 就寝2時間前にはスマホを見るのは止める。早く寝なくてはと焦るとスムーズに入眠することができません。眠気を感じてから床に就くようにする。子どものストレス解消は遊ぶことと、『**寝る前の抱っこ、朝起きてからの抱っこ**』です。



防 犯 意 識 向 上

過日の防犯訓練と神戸市のマンションで女性が殺害された事件を受け、こども園や支援センターでは、防犯意識が高まっています。今回の事件で犯人が早く確保されたのは、防犯カメラの存在があります。CITYやニコットで天井を注意して見ると、カメラや防犯ミラーがたくさん設置されています。また、「防犯カメラ作動中」と表示されています。

警察からは、「防犯対策をしていることをアピールし、侵入を未然に防ぐことが大事」と言われました。子どもの安全・安心のためにさらに防犯意識を高めていきます。

9月4日(木) BS テレ東:土曜日18:30から 「男はつらいよ」シリーズを楽しみに見っていました。

何度、何十回と見た作品ですが、その都度、笑いと涙が誘われます。核家族化がはじまって30~40年が過ぎ、その中で育った子どもたちが親や祖父母になって、本格的な家族の断絶が起きています。

寅さんの映画の時代は、「そうなんだ。こんな風に人と人が愛し合い、仲よくするために面倒な努力をしながら社会が成り立っているのだ。」という思いが込められています。けれども、今の若者たちとその思いを共有することができないかもしれないと不安になります。

何故か日本人は毎日ゆとりなく過ごしていて、人と人が深く関わり合う時間がない。それは学校の先生にもいえます。先生は学校で子どもたちと仲よくすることが仕事なはずなのに、今は、それができない状況にあります。子どもは先生をひとり占めしたいと願うものではないでしょうか？

と今の学校教育について山田洋二監督は心配して言っています。

寅さんシリーズには、日本人が忘れかけている「人情」がテーマになっています。突飛な言動、鼻歌、様々な感情を見せる寅さん、ドジで間抜けな一面もありながら、どこか愛嬌があります。そして、その寅さんを温かく受け入れる家族の姿に、多くの人がホッと安らぎを感じます。こんな映画はもうできないでしょう。でも、何度も何度も再放送されるのは、日本人は「人情」を忘れていない証拠だと思います。



保護者アンケート 集計が終わって、結果の分析をしています。3・4年前のデータと比べて、成果と課題を判断しています。先生方が集まって、指摘を受けたことについて話し合い改善策を検討しています。

よかった項目についても、どうして保護者の皆さんから支持を得たのか、評価の低い項目との取り組みの違いは何か、保護者評価と職員評価を比べると、思った以上に開きがあります。その違いは何故かなど、話し合っています。そのことで保育が充実し、子どもたちの安全・安心な活動につながるからです。

ただし、先生方の仕事量には限界があります。こども園の先生方は、学校の働き方改革ほど進んでいません。ご理解を求めることもあるかも知れません。

9月5日（金） 動物から母性本能を学ぶ

知床で人を襲った熊は、親子連れでした。「子どもを連れた母熊には気をつけろ!」といいます。子どもを守ろうとして母熊は必死になるからです。カラスが巣作りをする頃、巣に近づく人を襲うことがあります。アフリカの草原では、ライオンに襲われた子どもを助けようと母親は勇敢にもライオンに立ち向かっていきます。その形相にさすがのライオンも逃げていきます。親の愛は本能であり、自分を犠牲にしてまで、子どもを守る行動として現れるのです。しかし、母性本能は、出産直後に必ずしも子どもへの強い愛着が生まれるわけではなく、育児を通して感情的な部分が形成されていきます。母親になれば自然と子どもへの愛がわき上がる、といった考え方には科学的根拠はありません。この「親性脳」と呼ばれる育児に必要な脳内ネットワーク活動は、実母や性別などに関係なく、育児経験によって発達すると近年の研究で示されています。



こども園の先生は、正にこれに当てはまります。ただし、親の過保護な行動は、かえって子どもの成長を妨げる「親毒」となることもあるので注意が必要です。

そして、この保護行動が子どもに与える影響として、健全な愛情を受けて育った子どもは、自己肯定感が高く、心に余裕があり、情緒が安定します。また、親からの愛情をたくさん受けて育った子は、子どもは困難な状況に立ち向かう力や、自分自身の価値を認識する力を得ます。人間だけが偉いわけではありません。動物から学ぶこともあります。



『敬老祭』 9月5日公民館

町の敬老祭に5歳児が参加しました。出し物は、運動会でやったダンスや組体操、園歌です。おじいちゃんおばあちゃん、とても喜んでくれました。5歳児さんは、菅野養蜂所さんとの交流もありました。これも「地域との連携」です。

9月8日（月） ～「悪いのは相手」という考え方をしない～

小さい子は、「ぼく（わたし）は悪くないもん」とよく言います。身をかばいたいという気持ちは小さい子どもでもあります。こんなとき子どもに同調して「はい、あなたは悪くないわよ。」と迎合するようなことは言ってはいけません。そんなときは、「本当に自分が悪くないかどうか、相手の気持ちになってもう一度よく考えたあとでもう一回話を聞きます。」◆ここで大切なことは、子どもがどんな話をするかではなく、小さい頃から、立ち止まって考える時間を身に付けさせることです。品格のあるお母さんは、そう簡単に迎合したりしないものです。簡単に迎合すると自分のやることは何でも正しいと思い、単純に悪いのは相手だと思ってしまいます。◆交渉のテクニックのように、相手にすべて責任を押しつけて、悪いのは相手と決めつけて交渉をはじめのやり方です。最後まで自分の落ち度を認めようとしない。こんなことを続けていると、自己中心的な人間になってしまいます。子どものケンカやトラブルは、よほどのことがない限り100%相手が悪いということはありません。立ち止まって考える時間をもてばわかるはずですよ。

親が悪いのは相手と決めつけるような考え方や話し方をしないことです。子どもには立ち止まって考える時間が持てるようにしつけることです。「しつけ」とは仕向けることです。焦らずにゆっくりでいいのです。

